

都市再生整備計画 フォローアップ報告書

座間南東部地区

平成24年12月

神奈川県座間市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	防災対策満足度	%	9	13	14	確定 見込み ●	○	あり なし	44	H24年9月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	避難場所となる小中学校の屋内運動場の耐震工事の完了、耐震性貯水槽、防災無線、防災備蓄倉庫の設置を行った結果、地区内の防災機能が向上し満足度が向上した。
指標2	道路の整備状況満足度	%	10	15	29	確定 見込み ●	○	あり なし	44	H24年9月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	大型物流施設の進出による新たな交通集積への対応と、大規模商業施設の進出に備えた周辺施設の整備が実施されるなど、地区内の道路事業の進捗により、整備状況の満足度が向上し、円滑な地域交通が確保された。
指標3	道路の安全、快適度の向上度	%	31	36	32	確定 見込み ●	△	あり なし ●	27	H24年9月	×	踏切改良、歩道改良、交差点改良などは実施されたが、アンケートでの評価には結びつかなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	事後評価時には微増ながら向上傾向がみられたが目標は達成できなかった。道路改良等、引き続き改善策を講じる必要がある。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	交通事故件数	件	337	/	237	確定 見込み ●	/	/	303	H24年11月	/	踏切拡幅や交差点・歩道改良など実施され安全性は確保され、従前値よりは改善されたが、評価値を厳しく設定してしまった。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	道路事業の進捗により、踏切拡幅や交差点・歩道改良などが実施され地域交通の安全性が確保された。従前値から確定値へは34件減となり成果が確認できたが、評価値を厳しく設定してしまった。
その他の数値指標2	道路の快適性の向上度	%	-	/	52.5	確定 見込み ●	/	/	68.42	H24年9月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	工業地に住宅が進出するなど白用の変化による生産環境・生活環境への対応など、地域内の道路事業の進捗により、踏切改良、歩道改良、交差点改良などが実施され、道路の快適性が向上し、歩行者、車利用者の快適な交通環境が確保された。
その他の数値指標3	公共交通の利便性の向上度	%	-	/	52.6	確定 見込み ●	/	/	46.24	H24年9月	/	利便性の向上は図られたが、完成後のイメージによる期待値が大きかったと推測される。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	地域内でコミュニティバスの運行実験を行い、ルート見直し等を行った結果、公共交通の利便性が向上し、路線バスを補完する身近な公共交通が確保された。

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標4	市民一人当たりの避難所面積	m ² /人	0.15	0.3	確定 見込み ●			0.3	H24年9月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	避難所となる小中学校の屋内運動場の耐震工事の完了により、市民一人当たりの避難所面積が増加し、耐震性能を保持した避難所が増加した。	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-2から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-3 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-3に記載した今後のまちづくり方策(事項)	実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために行う方策	交通の安全、快適性の維持	整備・改善された生活道路について、機能を維持するための点検・維持管理に努める。	道路の快適性の向上度は、事後評価値の52.5%から確定値の68.42%で15.92%の増加となった。
	避難所機能の維持	災害時等において、避難所としての機能を最大限に発揮するため、日常の点検及び維持管理に努める。	避難所となる小中学校の屋内運動場の耐震工事の完了により、市民一人当たりの避難所面積が増加し、耐震性能を保持した避難所が増加した。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	交通の安全、快適性の維持向上	歩行者、車利用者の安全性、快適性の維持向上を図るため、市民意向を踏まえた生活道路を中心とした道路整備を推進した。	踏切改良、歩道改良、交差点改良を実施し、市民サービスの向上につながった。
	まちの防災機能の向上	避難場所としての機能の維持及び安全性の対応を図り、安心・安全なまちづくりの更なる向上のため、防災施設の整備を推進した。	避難所となる小中学校の屋内運動場の耐震工事の完了により、市民一人当たりの避難所面積が増加し、耐震性能を保持した避難所が増加した。
	変化する生活環境への対応	今後、想定される土地利用の変化に対応し、安全で快適な生活環境等を維持・向上させるため、市民ニーズを把握した中での取り組みを検討した。	市民アンケート等を実施したことにより、市民ニーズを把握することができた。

事後評価シート 添付様式5-3から転記

様式4-4 フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画(精算報告)

座間南東部地区

神奈川県 座間市

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	座間市	地区名	座間南東部地区	面積	626.3 ha
-------	------	------	-----	-----	---------	----	----------

計画期間	平成 16 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度
------	---------------------	------	---------------------

<p>目標</p> <p>大目標 市民と観光客が楽しみ、ふれあうことができる中心市街地の再生</p> <p>目標1 中心市街地の市民の生活拠点としての機能回復を図る。</p> <p>目標2 中心市街地の資源を見直して、観光客を中心市街地に誘客する。</p>

<p>目標設定の根拠</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>・当該地区は、座間市の南東部に位置し、ひばりが丘・小松原地域と栗原・東原地域が当該地区を構成し、相模野台地と座間丘陵等により変化に富んだ地形を有しています。南部に相模鉄道が通り、さがみ野、かしわ台両駅が至近であり、東部は小田急江ノ島線の駅にも比較的近く、横浜・東京方面への通勤・通学などに便利のため、昭和30年代以降、住宅地、工場地として開発が進められ、ひばりが丘、東原地域では、本市の平均人口密度の1.5倍から2.5倍の人口集中地域となっています。</p> <p>・当該地区には、座間市地域防災計画により、地震災害発生時に備え広域避難場所が8箇所、避難所が13箇所指定されており、物資、資機材、要員等の緊急輸送のための県指定の緊急輸送路である国道246号、県道42号線の他に市指定の緊急輸送路が10路線指定されています。</p> <p>課題</p> <p>・災害発生時の避難所としての小中学校の整備を喫緊の課題として進める必要があります。</p> <p>・栗原・東原地域では、生活道路を中心とした都市基盤の整備が課題となっています。</p> <p>・ひばりが丘・小松原地域は、住宅地域や工場地域が大部分を占めており、住工混在地域が存在する中、近年では工場の移転などによる土地利用に変化が見られ、生活環境や生産環境などに対応した取り組みが必要となっています。</p> <p>・ひばりが丘・小松原地域は、ほとんどの生活道路が狭く、安全面や利便性の面が課題となっています。</p> <p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>・東原地域では、「誰でも我安心して快適に生活できる魅力あるまち」を目指しています。</p> <p>・栗原地域では、「伝統と文化と自然との調和がとれ、郷土愛に満ちふるさとと誇れるまち」を目指しています。</p> <p>・ひばりが丘地域では、「やすらぎと潤いを感じ、安心して暮らせるまち」を目指しています。</p> <p>・小松原地域では、「人間味あふれる明るい心豊かなまち」を目指しています。</p>

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
防災対策満足度	%	市民意識調査により、地震や火災に対する安全性について「満足」「まあ満足」と答えた市民の割合	防災対策の充実を、当該地区の市民意識調査での地震や火災に対する安全性について「満足」「まあ満足」と答えた市民の割合を1.5倍増加させることを目標とする。	8.7	平成16年度	13	平成23年度
道路の整備状況満足度	%	市民意識調査により、道路の整備状況について「満足」「まあ満足」と答えた市民の割合	交通の安全性、歩行者の快適性の向上を、当該地区の市民意識調査での道路の整備状況について「満足」「まあ満足」と答えた市民の割合を1.5倍増加させることを目標とする。	10.2	平成16年度	15	平成23年度
道路の安全、快適度の向上度	%	まちづくりのための市民アンケートによる「安全、快適な道路になってきている」と感じる市民の割合	交通の安全性、歩行者の快適性の向上を、当該地区のまちづくりのための市民アンケート調査での「安全、快適な道路になってきている」と感じる市民の割合を5ポイント増加させることを目標とする。	30.8	平成18年度	35.8	平成22年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(交通の安全性、歩行者の快適性の向上、円滑な地域交通の確保、公共交通の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通の安全性、歩行者の快適性の向上を図るために、踏切改良工事、交差点改良工事、歩道改善工事を実施する。 ・市役所を中心とした公共交通の確保のため、コミュニティバスの試験運行を実施する。 ・大型物流施設の進出による大型特殊車両の通行に対応し、交差点改良など円滑な地域交通の確保を図る。 	<p>さがみ野1号踏切拡幅事業、市道11号線道路改良事業、市道37号線道路改良事業、市道ひばりが丘137号線道路改良事業、コミュニティバス運行事業、市道13号線道路改良事業</p>
<p>整備方針2(地域防災対策の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域防災施設である避難所としての小中学校の屋内運動場について、耐震化工事を実施し、避難所機能の確保を図る。 ・地震防災緊急事業対策として耐震性貯水槽を設置し、火災発生時に迅速に対応することで、市民の生命を守り、被害を最小限に留めるよう図る。 ・地震発生時において、被災した市民の救出活動用及び避難者が発生した際に使用する資機材の保管場所を整備し、有事に備えた体制を整備する。 	<p>ひばりが丘小学校屋内運動場耐震化工事、栗原小学校屋内運動場耐震化工事、東原小学校屋内運動場耐震化工事、旭小学校屋内運動場耐震化工事、栗原中学校屋内運動場耐震化工事、耐震性貯水槽整備事業、防災備蓄倉庫整備事業、防災無線(MCA無線)整備事業</p>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○円滑な地域交通の確保 工業専用地域に大型物流施設が進出しており、その対応として市道13号線の交差点改良が必要であるが、現在は統合補助を活用し整備する方針です。 ○街並み形成の誘導を図るための方策について 平成17年度に景観地区についての庁内プロジェクトチームによる検討を実施し、平成18年度には外部委員による景観計画検討会議を発足し、景観計画及び景観条例の骨子を検討し、条例化を目指し準備を進めています。 ○交付期間中の計画の管理について まちづくり交付金に関する委員会を設置し、目標達成に向けた交付期間中における効果的な各事業の展開について、評価や方法等の改善などモニタリングを行います。 	

